

2018年1月23日の草津白根山噴出物構成粒子の特徴

2018年1月23日の草津白根山（本白根山）噴出物に変質粒子が約8割を占める。既存の山体の構成粒子が噴出したと考えられるため、今回の噴火は水蒸気噴火である可能性が高い。

草津白根山（本白根山）1月23日噴火の噴出物を観察した。噴火は9時59分頃に本白根山の鏡池北火砕丘付近から発生した。試料は10時頃に本白根山・鏡池北火砕丘の北東約500m地点のゴンドラ座席に堆積したもので、13時07分に気象庁により採取された。観察には水洗・篩い分けした125～250 μm 、および250～500 μm の粒子を用いた。水洗時には細粒な黄鉄鉱（py）粒子が浮遊した。

1月23日噴火の噴出物（図1）の構成粒子は、全体の約8割が白色粒子（H）と様々な程度に変質した岩片（L）からなり、H粒子には黄鉄鉱の付着がしばしば見られる（図2）。全体の約1割はガラス光沢を呈する緻密～発泡した粒子（G）（図3）、残りの約1割は結晶片からなる。

今回の草津白根山（本白根山）噴出物には、既存の山体の構成物だと考えられる変質粒子が約8割（H、L）含まれる。G粒子とL粒子は変質程度が漸移するため、G粒子も山体の構成粒子の可能性もある。従って、今回の噴火は水蒸気噴火である可能性が高い。G粒子の成因については今後の検討を要する。

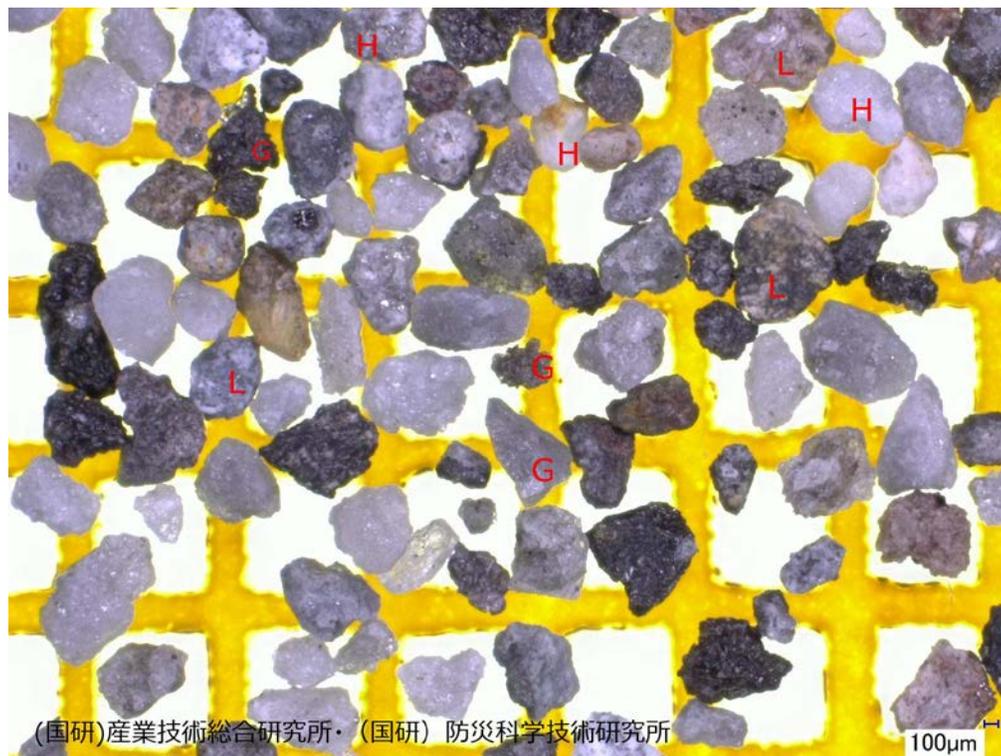


図1. 2018年1月23日の草津白根山（本白根山）噴出物の構成粒子（250-500 μm ）。H：白色粒子。L：変質した岩片。G：ガラス光沢を呈する緻密～発泡した粒子。



図2. 2018年1月23日の草津白根山（本白根山）噴出物の構成粒子（250-500 μm）. H: 白色粒子. L: 変質した岩片. H粒子には黄鉄鉱（py）の付着が見られる.

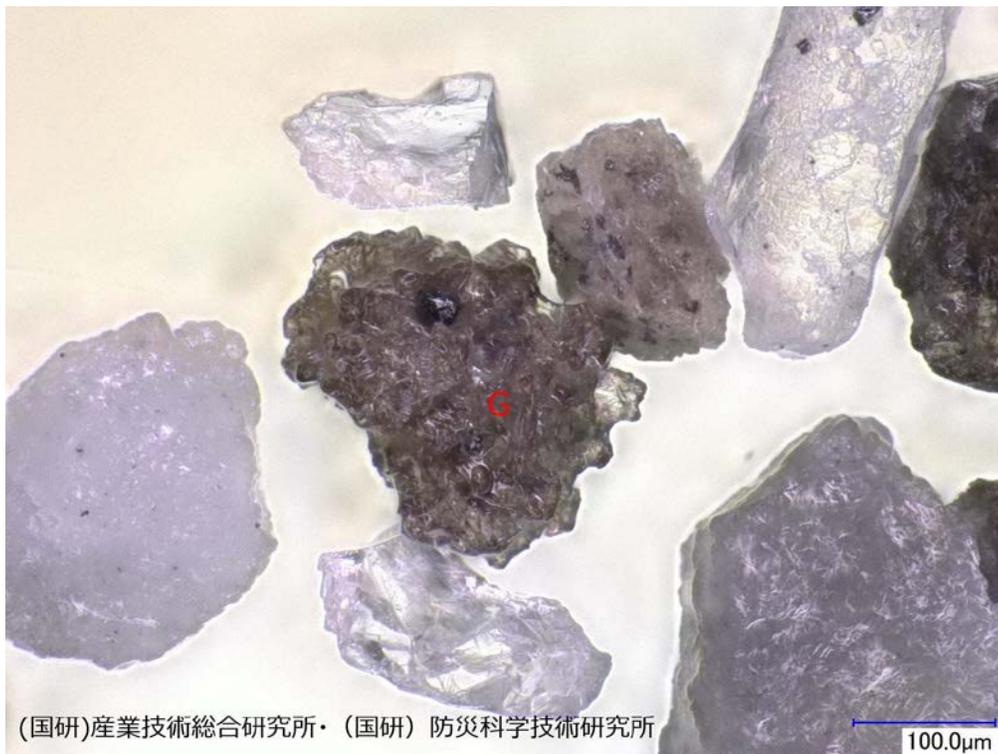


図3. 2018年1月23日の草津白根山（本白根山）噴出物の構成粒子（125-250 μm）. G: ガラス光沢を呈する緻密～発泡した粒子.